

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年8月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の  
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動  
の充実

自分自身が日々納得  
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願  
達成

御聖意を拝し、身軽法重  
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で  
人材育成

『金沢の抜け参り』のお  
姿を忘れず寺院参詣・  
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年7月9日 御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「御本尊へのお給仕は信心の原点」

小さなことの積み重ねは人の相に表われます。日蓮大聖人は、富木殿に宛てられた御書に、「仏の名を唱へ、経巻をよみ華をちらし香をひねるまでも、皆我が一念に納めたる功德善根なりと信心を取るべきなり」(御書46)と仰せです。「仏の名」「経巻」を唱えるとは、朝夕の勤行や唱題を意味しています。また「華」「香」は仏様に対するお給仕のことをさします。朝一番、御宝前に清らかな真心をもって、華・香・水をお供え申し上げることが大切です。これは基本中の基本ですが、このような日常のあり方の中にこそ、積み重ね、不断の修行があり、成仏に欠かせない大切な功德の積累があるのです。「如在の礼」と申しますが、御本尊を生ける大聖人と拝し奉り、報恩謝徳の志からの勤行・お給仕にと信仰を深めてまいりたいものです。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その36)

創価学会が宗門から破門となるには、その前段にはかつて入門がありました。この入門と破門を知るためには、「破門通告書」の内容を熟視する必要があります。破門という背景には、純然とした一つの歴史があります。破門にあたり宗門が創価学会に何を語ったのか。平成3年11月28日、日蓮正宗は創価学会名誉会長の池田大作氏、同会会長の秋谷栄之助氏、同会理事長の森田一哉氏あて、「創価学会破門通告書」を通告しました。今号より、その全文を掲載してまいります。

「先般、日蓮正宗は、創価学会に対し、これまでの問題の一切の責任を取って、自主的に解散するよう、『創価学会解散勧告書』を送付いたしました。しかるに、創価学会は、かえってこれに反発し、法主並びに宗門に対して、ますます悪質な誹謗中傷を重ねております。日蓮正宗としては、創価学会が、信徒団体としての存立の目的・基盤を自ら破壊し、本宗の法義・信仰に著しく背反し、また宗教法人としてのあり方からも大きく逸脱して、法主・宗門からの、たび重なる教導・制誡に対しても、一片の反省懺悔すら示さないため、もはやこれ以上、本宗信徒団体として放置しておくことはできず、ここに、日蓮正宗からの破門を通告するものであります。さらに、このような創価学会の指導を受け入れ、同調している全てのSGI(創価学会インタナショナル)組織、並びにこれに準ずる組織に対しても、併せて破門を通告いたします。」(続きは次回、「第一 日蓮正宗と創価学会との関係」になります。また、これまで掲載の「正しい仏教への信仰を知らない方へ」はしばらくお休みとなります。)